

インドネシア水道に係る情報収集 No. 201101-1J

検索サイト	Google	実施日	2020/11/01	実施者	TADOKORO
検索方法：「インドネシア AND 水環境」で検索（「インドネシアの水環境」と表示される）					
URL： https://eri-kawasaki.jp/keri-column/19604/					
<p> 標題：【川崎市環境総合研究所職員コラム】川崎市の取り組みとインドネシアの水事情 川崎市環境技術情報 令和2年9月17日 事業推進課（国際連携・研究推進担当） 澤田 光彬 </p>					
<p>〔要約〕</p> <p> インドネシアのチタルム川は、インターネットで検索すると“世界一汚い川”と冠のついた記事が多く出ている。川崎市でも1970年代から80年代にかけて多摩川が生活排水や工場排水等によって汚染された歴史がある。 </p> <p> このような公害を克服した経験と知見を活かし、川崎市では平成29年度から昨年度までの3年間でバンドン市の廃棄物管理能力を向上させるための支援をJICA草の根技術協力事業として行ってきた。令和元年度からは、環境省が実施するインドネシアにおける河川水質改善のための都市間連携にも参画し、バンドン市に流れるチタルム川の支流を対象に水質改善能力向上のための支援を行っている（備考欄に関連情報）。 </p> <p> インドネシアの家庭における水事情について、筆者が研究のため滞在していた東カリマンタン州サマリダ市の家庭の例を紹介する。 </p> <p> インドネシアの家庭の洗面所は風呂とトイレが一体となっており、マンディールームと呼ばれる{マンディ(mandi)とはインドネシア語で水浴を意味する}。バスタブに水を溜めて、手桶を使って体を洗ったりトイレの水を流したりする。水が減ってきたら、蛇口から水を足すが、水が出てくるのは深夜から早朝と時間が決まっており、常に蛇口から水が出てくるわけではない。蛇口から出る水には泥が混ざっておりバスタブに溜めた水は濁っている。しばらくすると泥はバスタブの底に沈殿するので、上に溜まっている澄んだ水を利用する。 </p> <p> 飲み水はウォーターサーバーもしくはペットボトル、カップ入りの水を購入する。蛇口から出る水を飲む場合は十分に煮沸する。水が枯渇した際はタンク車が町を回り各家庭にある水瓶やバスタブに水を供給する。インドネシアの水は日本のように自由に利用できるわけではない。驚くべきことに、これは一般に高所得者層にある国立大学教授の家庭の事例である。 </p> <p> 家庭の水の利用方法は都会のバンドンでも地方の東カリマンタン州のサマリダでもほぼ変わらない。しかし、低所得者層の家ではより水の確保が困難であり、水道を持たない家庭も多いという。川の水を直接利用している場合や、濁った質の悪い水が出てくる井戸を用いている家庭、タンクに水を詰めて売っている水売りから水を購入している家庭もあるとのことである。個人の所有す蛇口を共有し、利用者が所有者個人に使用料を支払い、所有者が水道企業へ全使用分の料金を支払うシステムを用いているコミュニティもあるとのことである。 </p> <p> 東カリマンタン州サマリダ市では町の中心を流れるマハカム川という大河の水を源とし、その水を浄化し市内に供給している。しかし、バンドン市の川は汚染が深刻なため、バンドン市の水源は一部の地下水や市内から離れた貯水池に限られ、供給量が逼迫していると言われている。環境総合研究所では川崎市の水質改善に関する知見やノウハウをバンドン市に提供し、バンドン市民のより良い水供給のための環境づくりに貢献している。 </p>					
備考 https://eri-kawasaki.jp/publication/business-matching1/					